

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島）

（2019年7月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- カリブ諸国の中で昨年最も高い成長率を示したグレナダ経済は依然観光などを中心に好調。セントキッツは公的債務のGDP比が初めて60%を下回った。
- セントルシアがカリコム議長国を引き継ぎ、同国で首脳会合が開催され、グテーレス国連事務総長、ソールベルグ首相も参加した。ソールベルグ首相は多くの首脳との2国間会談を実施した。
- 蔡英文台湾総統は、セントキッツ、セントビンセント、セントルシアを歴訪したが、5月の呉外交部長と同歴訪に次ぐものであった。セントビンセントは8月に台湾での大使館開設、初代大使の任命を発表した。

2. 内政

- 2日付各紙は、スケリット・ドミニカ国首相は年内実施が予想される次期選挙後に、政界を引退すると述べ、次の人材への交代を確実なものにしたいと述べたと報道。
- 19日付地域紙は、セントキッツの政治評論家は、次期総選挙で現連立政権側が勝利したとしても、各党の議席によってはハリス首相が首相に残るのは難しいと見ていると報道。
- 21日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、バランタイン総督から健康上の理由で辞任の申し出があり、エリザベス2世女王陛下に、7月末での同総督辞任及び8月1日付で新総督にスーザン・ドゥーガン氏を推薦するとの書簡を發出し、女王陛下より承認の書簡が届いたと述べた、元教育者のドゥーガン次期総督は、同国により初の女性総督となると報道。
- 31日付セントキッツ紙は、同日大麻の非犯罪化を内容とする薬物不正使用・乱用防止削減法改正法案が議会で可決されたと報道。
- 31日付ドミニカ国紙は、30日スケリット首相は同国最大となる10億2千万東カリブドルの20年度予算案を議会に提出した、その際に大麻の28.35グラム未満の所持を非犯罪化する法案を近く提出すると述べたと報道。

3. 経済

- 2日付セントキッツ情報局は、ハリス首相は、同国の公的債務の対GDP比率が18年3月の62.3%から本年3月に56.4%に減少し、OECS諸国の中で初めて国際水準のGDP比60%以下を達成した、前政権時にはGDP200%を超えていたが、現政権の規律ある財政管理の成果と述べたと報道。
- 4日、OECS事務局は、ジュールズ同事務局長がジュネーブでEU・ACPからの貿易促進支援として360万ユーロの支援合意に署名したと発表。
- 7日付セントルシア紙は、同国訪問中のグテーレス国連事務総長はサルガッサム海藻の被害地を視察し、地域社会の経済や海洋生態系へ大きな影響があると理解したと述べたと報道。
- 8日、セントキッツ情報局は、EUはドミニカ国の再生エネルギー支援のため791万東カリブドルを支援する合意に署名したと発表。
- 10日付ドミニカ国紙は、スケリット首相は最近同国はEUの税務に関する非協力的司法を持つ国のリストから除外されたが、依然としてこのリスト自体に不満を持っている、ブラウン・アンティグア首相も2度もハリケーンの大被害を受けたドミニカ国をこのリストに掲載されたことに懸念を示したと報道。
- 11日付アンティグア紙は、バルバドスが保有するLIAT航空の株式のアンティグアによる買い取り交渉は合意に達せず決裂した、その理由の1つはバルバドスが1億東カリブドルの債務の引き取りも要求したことと報道。16日付アンティグア紙は、ブラウン首相はバルバドスの条件は実質4,400万米ドルでの買い取りとなり、これには応じられないと述べたと報道。
- 17日付セントビンセント紙は、英国国際援助庁は910万米ドルの島嶼国4カ国向けの研修を実施し、セントビンセントは2,200人がその研修を受けることになることと報道。
- 19日付地域紙は、セントビンセント医療大麻局は、加企業に対し同国での医療大麻生産及び輸出の許可を発給したと報道。
- 24日付地域紙は、22日カナダはドミニカ国の気候変動強靱性局の活動強化のために300万加ドルの支援を行ったと報道。
- 24日付セントビンセント紙は、18～20日キューバ経済代表団がセントビンセントを訪問し、ゴンザルベス首相と会談し、両国の経済関係強化を協議したと報道。
- 24日、OECSはカリブ天然資源研究所との協力覚書に基づき、グリーン・ブルーエコノミー戦略及び行動計画を策定すると発表。
- 30日、グレナダ政府は、ミッチェル首相兼財務大臣は、同国経済は観光及び運輸部門を中心に19年も好調であり、また建設部門も18年ほどではないが経済と雇用を牽引していると述べたと発表。

4. 外交

- 3日付セントキッツ紙は、カリコム議長国の任務を終えたハリス首相は、ベネズエラの政治、経済情勢についてカリコムが誠実な仲介役の立場を取っていることを賞賛したと報道。
- 3日付グレナダ紙は、グレナダはカナダとオープンスカイの航空協定を締結し、両国間の旅客及び貨物便の制限が撤廃された、同協定は即日発効と報道。
- 4日、セントビンセント紙は、同国がCARIFORUMの議長国に就任し、20年6月まで務めると報道。
- 4日付セントビンセント紙は、シャスネ・セントルシア首相がカリコム首脳会合で、セントビンセントの国連安保理非常任理事国選出に関し、同国が職務を全うできるようにカリコム諸国は支援すべきと述べたと報道。
- 4日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相はアルマグロ米州機構事務総長の再選にはベネズエラ問題への対応などから反対という立場を明確にしたと報道。
- 8日付アンティグア紙は、6日バルガス・ドミニカ共和国外務大臣が来訪し、グリーン外務大臣と共に、同国のドミニカ共和国大使館開館式典を行ったと報道。
- 11～12日、ジョセフ・セントキッツ農業・漁業大臣は日本で開催された水棲生物資源に関する会合に出席のため訪日した。
- 11日、平山大使は、セナック・セントルシア総督に信任状を捧呈した他、シャスネ同国首相を表敬訪問し、2国間関係を更に強化することで一致した。また、12日、平山大使は、同国ショゼール地区にあるリバードリー・アングリカン小学校への草の根・人間の安全保障無償資金協力による同校改修完成式典に出席した。
- 13～19日、蔡英文台湾総統は、セントキッツ（13～16日）、セントビンセント（16～17日）及びセントルシア（17～19日）という台湾承認国を歴訪し、各国で総督、首相等と会談し、台湾との関係強化、協力推進が図られた。特に、セントビンセントでは、ゴンザルベス首相が8月に台湾に同国大使館を開設し、ポーエン大使を任命したと発表した。（各国報道）
- 19日付セントビンセント紙は、セントビンセントは18日コロンビアで開催された米州機構総会にベネズエラ野党側の代表の出席に反対したと報道。
- 25日付アンティグア紙は、24日ワシントンで同国とコソボが外交関係を樹立し、査証免除取り決めが署名されたと報道。
- 29日付セントキッツ紙は、25～28日ハリス首相はモロッコを訪問し、オタマニ首相及びブリタ外務大臣と会談し、両国関係強化を協議し、19～21年の協力強化計画の改定を行ったと報道。

● 31日付地域紙は、29日マーリキー・パレスチナ外務庁長官がセントキッツを訪問し、ブラントレー外務大臣との間で外交関係樹立合意に署名したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。